

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻／高原
光恵

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

授業は主として特別支援関連の科目を担当予定である。将来、子どもに関わる専門職となる学生には、知識面も指導力・行動力も求められる分野であり、そうした力を発揮する以前の問題として、まずは気づく力が欠かせない。

- 1) 授業内容: 授業科目に関する基本的な知識提供に加え現状における課題も扱う。
- 2) 授業方法: 将来、自ら学び続ける教員となれるよう、課題に自ら気づき、解決するための思考力・判断力・表現力等を培う機会を設ける。例えば授業テーマに沿った実際の話題を取り上げ、受講者間での議論の場や発表の場を設ける。
- 3) 成績評価: 最終の成果物及び出席状況だけでなく、受講態度(特に主体性)も加味して評価を行う。

2. 点検・評価

1) 特別支援に関連する各種テーマについて、基本的事項内容の習得、方法論的に参考にすべき点／批判点、今後自らの教育実践に活かしたい点などの発言が引き出せるような授業進行とした。原則と実状との差異について考える時間となったと考える。

2) 自ら希望したテーマ選択であり、事前調査も課した形態であったので、授業内での受講者間での議論もより具体的なものが多かった。多くの受講生にとって、知識上のものにとどまらず、我が身のこととして感情面も含め考える機会になったと思う。

3) 上記の内容、方法であったため、概ね主体的に授業参加する受講生が多くなった。評価については、事前準備の状態や当日の授業内での主体性、積極性なども加味して行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

必要に応じて他の教職員と情報共有を図りながら、学生相談への対応を行い、本学での学生生活がより充実したものとなるよう努める。

2. 点検・評価

必要に応じて関連する教職員と情報共有を図りながら、学生相談への対応を行った。急ぎの事案に関しては特に、最優先で対応し、学生生活に支障のないよう努めた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

論文投稿を2件行う。予定とする研究テーマは特別支援または感情に関するもの。

2. 点検・評価

視知覚／触知覚比較に関する論文が1件(単著:本学紀要)、
睡眠に影響する薬理効果についての論文が1件(共著:医学と生物学)、受理された。
その他、重症心身障害児者の睡眠リズムの把握に関する発表(リハ工学カンファレンス)、
および障害理解・啓発事業に関する発表(連名、リハ工学カンファレンス)を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

各種会議に出席(代理含む)し、担当する案件の対処に努める。

2. 点検・評価

各種委員会および専門部会、プロジェクト会議等に出席し、議案への対応を主体的に行った。
教務関連(主として実習関係)、入試関連、センター業務、附属との協同プロジェクトなど。
他の委員・職員との協力関係により、課題解決および円滑な業務遂行ができたと考えている。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

特別支援学校と連携し、互いに教育研究の質を高められるよう努める。
教育支援アドバイザー講師に登録する。

2. 点検・評価

引き続き特別支援学校との連携に努め、予定した事案について遂行することができた。
教育支援アドバイザー講師に登録し、派遣要請に応えた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

実習に関して、教務課の強力なサポートの元、学内／学外とのさまざまな連絡調整および関係向上に努め、学生の免許状取得に向けた環境整備に貢献した。

また、本学の所属を明示した上での社会活動も継続して行っており、教育環境の改善、復興支援、障がい者施策の推進など、教育・福祉・医療・労働などさまざまな分野の方々との連携協力関係も広げることができた。